

令和5年度 秋桜高等学校 学校評価

I 中期的目標

<p>1 生徒一人ひとりとしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する。</p> <p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p> <p>2 基本的生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。</p> <p>(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。</p> <p>(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。</p> <p>(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。</p> <p>(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。</p> <p>(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。</p> <p>(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。</p> <p>3 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。</p> <p>(1) 生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。</p> <p>(2) 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。</p> <p>(3) 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。</p>
--

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和6年4月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 別紙「生徒に対するアンケート」参照。</p> <p>○保護者 別紙「保護者に対するアンケート」参照。</p> <p>○教職員 別紙「本校教職員に対するアンケート」参照。</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や各種行事等を含む日常の生徒との交流・指導および保護者との懇談等をもとに、教職員は目標を理解しつつ活動している。 ・定期的、臨時的な会議および日常的な意見交換の場において確認された教職員の認識によれば、重点目標について各教職員の理解と協力が得られたと思われる。 ・前年度に引き続き上記のような取り組みを実行し、その結果は当年度においても全般的に目標に沿った効果を見ることができたと考えられる。 ・コロナが5類移行となり、日常の教育活動が戻ってきた。コロナ禍の中で感染予防に留意し、議論の結果工夫や変更を行ってみて良かったことについては、元に戻すのではなく、本校の新たな基準として継続している。例えば、一教室の座席数を35席から24席に減らしたことが、生徒にとっても教員にとっても安心の授業空間を生み出すことが確認されたため、現在も一教室24席を維持している。また、家庭科の調理実習について、これまでは班で協力して行っていたが、コロナ期間中は一人ずつ用意された材料と道具を用いて個別に行うスタイルで実施していた。一人ずつやることの安心感と、同じ教室で一斉に行うことでの一体感の両方が担保されることから、現在もこの形式で継続して実施し、一回に参加できる人数設定を増やすなど、同じ時間に行われる授業を圧迫しない工夫も同時に行っている。「スノーボード研修」については、従来通りの実施を計画していたが参加希望者が集まらず、急遽中止せざるを得ない状況となり、府内での一泊二日の冬キャンプ実施で代替した。今後は議論を重ねて、より参加しやすい冬の宿泊行事の実施形態について探っていきたいと考えている。 	<p>学校評価委員会実施日：令和6年6月28日（構成委員6名）</p> <p>1 自己評価の結果内容が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</p> <p>2 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</p> <p>3 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</p> <p>4 学校運営の改善に向けた実際的な取組が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に関する生徒向けアンケートの肯定的評価があがっており、コロナが5類移行になり各種行事を平常通りに実施できるようになったことで、生徒たちが安心して行事の時間を楽しむことができるようになってきた表れと考えられる。 ・校内美化について、教職員・生徒の日々の意識付けも大切なのではないか。 ・保護者に対するアンケート項目の中で、一番「よく感じる」の数値が高かった「この学校に入学させてよかったと思う」について、全員の教職員が全員の子どもを「一人の人」として大切に思い、声かけをしたり話しかけていることがこのような実感につながっているのではないかという意見が出た。中でも毎月の郵送物に入っている一人ひとりに宛てた教員からの手紙や、返却されるレポートに書かれているコメントや手紙が、生徒や保護者に伝えるものが大きいと考えられる。

2 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人ひとりしっかりと話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する	<p>(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。</p> <p>(2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。</p>	<p>・継続課題として前年度より「学校づくり、学習・教科指導の充実についての保護者の認識」については、引き続き取り組む。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価(教職員)① 「本校の教育理念および方針に基づいて校務に取り組んでいる」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・自己評価(教職員)② 「時間割や開講科目等、教育カリキュラムを工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・自己評価(教職員)④ 「生徒が興味を持って参加できる授業になるように工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・自己評価(教職員)⑤ 「生徒の意欲を引き出す取り組みやすいレポートとなるように工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・学校評価(生徒)① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が89.5%(前年度実績92%)。 ・学校評価(生徒)③ 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が88.2%(前年度実績88.7%)。 ・学校評価(生徒)④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が90.8%(前年度実績91.2%)。 ・学校評価(保護者)② 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が83.7%(前年度実績84.0%)。 ・学校評価(保護者)③ 「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すよう工夫されている」の肯定的評価が85.0%(前年度実績87.0%)。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価(教職員)③ 「生徒の状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・学校評価(生徒)② 「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が90.1%(前年度実績94.4%)。 ・学校評価(保護者)① 「教員は、生徒一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が94.0%(前年度実績94.6%)。 	<p>前年度のアンケート結果と比較して、どの項目についても大きな数値の変動はなく、今年度も概ね学校運営、教育活動に対し、理解を得ていると評価する。</p> <p>学校評価(生徒)① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が2.5%減少していることについて、1年生の入学人数が61人から80人へ約3割増加したことから、年度末の授業などで多くの生徒が一つの教室に集まる状況が生じたことが原因と考えられる。</p> <p>学校評価(保護者)③ 「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すように工夫されている」の肯定的評価が2.0%減少、学校評価(生徒)② 「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が4.3%減少していることについて、近年レポートの支援日を毎月末に設け、できるだけ定期的に少しずつ取り組めるように声かけをしてきたこともあり、スクーリングの際にも日常的にレポートに取り組む生徒が以前に比べて格段に増えてきている。しかしながら、レポートに意欲的に取り組む生徒が増える一方で、グラウンド体育やレクリエーション体育など多くの教員の手が授業時間で必要な際に、レポートの支援に当たる教員の数が不十分になる状況が生じていたことがあったので、今後改善を計っていききたい。</p>

(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。

(2) 基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。

(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。

(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。

(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。

(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。

(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。

- ・継続課題として前年度より「宿泊研修等の特別活動への有意義な参加についての生徒の認識」については、引き続き取り組む。
- ・特別活動については、活動内容の企画・立案や生徒参加の留意点等について、慣例的・固定的なものにこだわることなく、充実したものとなるよう努める。
- ・何よりも「楽しい学校」であるべく工夫し、各生徒が自らも他からも肯定されることから始めることによって、自信と将来への希望を育むことに心がける。
- ・教育方針や生徒指導等に関しては、懇談の機会を重視しながら、教育内容に関する各種通信文書、「いじめ防止基本方針」のHP掲載等を活用しつつ保護者への周知を進める。

(1)

- ・自己評価(教職員)⑥ 「生徒が楽しくいきいきと参加できる学校行事となるよう考えている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑤ 「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が84.6%(前年度実績77.4%)。
- ・学校評価(保護者)④ 「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価が91.0%(前年度実績93.9%)。

(2)

- ・自己評価(教職員)⑦ 「どの学校行事にも生徒が参加しやすいよう丁寧に働きかけている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(3)

- ・自己評価(教職員)⑧ 「生徒の基本的生活習慣の確立につながるよう学校生活や行事の中で支援している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(4)

- ・自己評価(教職員)⑨ 「生徒同士がつながり、学校生活が心地よく過ごせるよう環境づくりを工夫している」の肯定的評価が95%(前年度実績100%)。

(5)

- ・自己評価(教職員)⑩ 「校舎や教室の美化に努めている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑥ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が90.1%(前年度実績88.7%)。
- ・学校評価(生徒)⑦ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が87.6%(前年度実績85.5%)。
- ・学校評価(保護者)⑤ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が95.2%(前年度実績94.7%)。
- ・学校評価(保護者)⑥ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が84.9%(前年度実績93.9%)。

(6)

- ・自己評価(教職員)⑪ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に進路相談や懇談を行っている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑧ 「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が82.1%(前年度実績80.7%)。
- ・学校評価(保護者)⑦ 「懇談や進路相談などが丁寧におこなわれている」の肯定的評価が94.0%(前年度実績96.2%)。

(7)

- ・自己評価(教職員)⑫ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に情報を発信している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑨ 「教職員は、郵送や電話などを通して丁寧に連絡をしている」の肯定的評価が94.4%(前年度実績97.6%)。
- ・学校評価(保護者)⑧ 「学習計画が立てられるよう、郵送や電話での連絡が丁寧におこなわれている」の肯定的評価が96.4%(前年度実績98.4%)。

学校評価(生徒)⑤ 「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が7.2%増加していることについて、各種行事を従来通り実施できるようになり、生徒一人ひとりが参加したい行事を自由に選んで参加できるようになったことが大きいと思われる。4年連続中止となった「スノーボード研修」は、これまでと同じ場所での実施を計画したが、バス代の高騰等により参加費を値上げせざるを得なかった。その結果、参加希望者が十分集まらず、中止を余儀なくされた。代替行事として最大限費用を抑えた形で、府内での冬キャンプを実施した。スノーボードへの参加を楽しみにしていた生徒にとっては大変残念な結果にはなったが、可能な範囲で宿泊行事の実施を模索したことで、形は違ったが楽しむことができたとの実感を得られたものと考えられる。

しかしながら、学校評価(保護者)④「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価は2.9%減少している。生徒が楽しんで行事に参加している様子を、保護者に十分伝えることができていなかったのではないかと考えられる。また、スノーボードを中止せざるを得なくなったことは、保護者の方をも落胆させることになったと考えられる。

学校評価(保護者)⑤、(生徒)⑥「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が増加していることについては、生徒一人ひとりを大切にする学校づくりについて、教職員研修や教職員会議、行事前の打ち合わせ等、教職員全員が集う機会に何度も確認し続け、日常の教育活動の中で実践を続けてきたことが表れていると考えられる。

一方で、学校評価(保護者)⑧や(生徒)⑨の肯定的評価は減少しているが、これはコロナ禍が明け、対面でのやり取りが十分できるようになり、郵送や電話での連絡が補助的に使われるようになってきていることの表れと考えられる。

(1) 生徒一人ひとりを大切にされた教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。

(2) 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。

(3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。

・継続課題として前年度より「各教職員間の情報伝達」については、引き続き取り組む。

・各教職員間においては、適切な個人情報の保護に配慮しつつ、できるだけ開放的な情報環境の構築に努め、各種行事の内容・日程および校務運営全般の企画・調整、教育課程検討、生徒指導指針、人権教育をはじめとする各種研修、進路指導、カウンセリング、広報活動等の校務分掌各部の分担業務について、教職員間での連携・協力を奨励する。

(1)

- ・自己評価(教職員)③
「生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導を行っている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑩
「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が91.3%(前年度実績91.2%)。
- ・学校評価(生徒)⑪
「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が92.6%(前年度実績89.5%)。
- ・学校評価(生徒)⑫
「この学校に入学してよかったと思う」の肯定的評価が92.6%(前年度実績94.4%)。
- ・学校評価(保護者)⑨
「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が94.6%(前年度実績99.2%)。
- ・学校評価(保護者)⑩
「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が95.7%(前年度実績98.4%)。
- ・学校評価(保護者)⑪
「校風・雰囲気が良い」の肯定的評価が89.8%(前年度実績94.6%)。
- ・学校評価(保護者)⑫
「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価が97.6%(前年度実績98.5%)。

(2)

- ・自己評価(教職員)⑭
「学校生活上で問題が起こった場合、その都度全員で話し合い、対応している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・自己評価(教職員)⑮
「生徒についての情報を丁寧に交流し、各個人に応じた指導を行っている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・自己評価(教職員)⑯
「職員会議やその他の会議等は、誰もが発言できる機会となっている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(3)

- ・自己評価(教職員)⑰
「教職員の資質向上につながるような研修の機会を設けている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

学校評価(生徒)⑩
「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」、
⑪「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が増加している。これは、生徒が登校してきた際の声かけや日常的な連絡などのやり取りであったり、月に一度の郵送物に入れる個別の手紙、提出されたレポート課題へのコメントや手紙など、それぞれの生徒に対する丁寧な関わりづくりによって、話をしやすい関係が生み出されている結果と思われる。

一方で学校評価(保護者)⑨⑩の肯定的評価が減少している。同じ問いに対する生徒による評価が上がっていることを考えると、生徒と保護者が学校生活について互いに思いを伝えあうような時間を日常の中で持つことが困難な状況にあることが想像される。親子ともに多忙で顔を合わせる機会が少ない様子も聞こえてくる。三者懇談時に保護者の方とだけ話す時間をできるだけ持つようにしているが、その時間を今後も大切にする必要があると考える。

学校評価⑪(保護者)「校風・雰囲気がよい」についての肯定的評価が4.8%と大きく減少している。入学する意思のある生徒を全員受け入れている本校において、多種多様な生徒がその子なりの過ごし方で学校生活を送っている様子は、一見すると校風が良いとは感じられないかもしれない。しかし、アンケートの評価を総合的に見て、生徒一人ひとりを大切にされた本校の教育についての理解は、一定得られているものと考えられる。